

沖縄で生きるぼくの平和への一歩

浦添市立港川小学校五年 與座 悠真

「今は戦前のようだ。」

この言葉は、沖縄戦を生きぬいた

九十二才の沖縄戦体験者の言葉

この一言で、ぼくの心は

きょうふで、ぎゅっとしめつけられる

また戦争がおきるの？

ぼくだんが落ちてくるの？

そんなことを考えると、心がどきどきして

いやな気持ちでいっぱいになる

戦争なんてぜったいおきてほしくない

死にたくない、生きていたい

ぼくは戦争がなくなるには

どうしたらいいのか考えた

まず戦争のことを知ろうと思った

知ったことを伝えようと思った

三年生と四年生の夏休み

浦添市の戦争、沖縄の戦争を調べた

母が教えてくれた

「悠真が生まれてすぐ港川小学校で

不発だんが見つかってね、

赤ちゃんの悠真をつれて

ひなんしたんだよ。」

ぼくの通う学校にも戦争のあとがあった

近すぎる戦争のあとに

心がぎゅっとしめつけられた

石垣島の空港で

有事のひなん訓練をしていたことが

新聞にのっていた

八十八才の目の不自由なおばあちゃんが

「ひなんしたら

自分の島にもどれないかもしれない

戦時中のそかいを思い出す。」

と、不安な顔で話していた

戦後八十一年たっているのに

体験者の方々は言う

「今は戦前のようだ。」

その言葉が、ぼくをずっとこわくさせる

ぼくは戦争や平和を学ぶために

戦争や平和についての新聞記事を

スクラップしてきた

国と国が交流する記事

ちがう文化を知り

おたがいの国について分かり合うことは

とてもすてきなこと

たくさん交流があり

仲良くしているのに

それでも国と国同士の争いはなくならない

戦争を知らない人がふえたら

また同じあやまちがおきるのかな

だからぼくは、沖縄から伝えたい

戦争のこわさ、平和の大切さ

ぼくが今できることは

学ぶこと、伝え続けること

それが平和への一歩

ぼくは沖縄から平和を祈り

これからも、行動し続けたい